



多様な文化のヨーロッパ 1500年にわたる通史

民族・言語・宗教が重層的に入り組む文化のモザイク——ヨーロッパ。分裂と統合、中心と辺境等を軸に、ローマ時代から現代までを立体的に描き出す画期的通史。統合のすすむヨーロッパ連合（EU）と、そのゆくえを論じる「追記」を追加した1993年刊の増補。

増補 ヨーロッパとは何か——分裂と統合の1500年
K・ポミアン:著 松村剛:訳 平凡社 【平凡社ライブラリー】
B6変型並製 398頁 2002年刊 ISBN:9784582764376 1,540円



「ヨーロッパ統合」という 夢と現実を理解する

EU政治の全体像を一冊でわかりやすく解説。ヨーロッパ統合の歴史的展開を前史から振り返り、複雑なEUの政治諸制度、政策決定過程を丁寧に解説する。移民政策など主な政策の特徴、各国政治との関係、さらには現在まさに揺れ動くEUの正統性に関する議論も紹介する。

EU政治論——国境を越えた統治のゆくえ
池本大輔、板橋拓己、川嶋周一、佐藤俊輔:著 有斐閣
A5判並製 326頁 2020年 ISBN:9784641150737 2,420円



ドイツ中世史の世界的権威による 中世史観の大転換！

ドイツの中世史は、それまでの貴族が遺した文書を中心に解析が進められたために、王に対する貴族の反発やインパクトの強い場面でその歴史は定義づけられてきた。特にユダヤ人を含め実際に庶民はどのようにドイツ全体を下支えしてきたのか。共生の社会史を明白にする！

中世共同体論——ヨーロッパ社会の都市・共同体・ユダヤ人
A・ハーファーカンフ:著 大貫俊夫、江川由布子、北嶋裕 他:編訳 柏書房
四六判上製 408頁 2018年刊 ISBN:9784760149407 7,480円

*価格は10%税込です

出版者クイズ

なんていう名前の出版社かわかりますか？

- ①創業者は一介の貧乏学生だった東大生の二人。「受験案内」の作成を思い立つ。このアイデアが大ヒット。それをベースに出版社を上げたのは1960年2月。文芸書の質の維持と経営の安定を掲げ文芸書と学校案内書の2本立て。外神田の川っぺりでスタートする。
- ②「最も先端的、と同時に最も伝統的なもの。語の根源的な意味でのラディカルな出版物を出したい」とは創業時よりの信念。
- ③その後の新社長はめるくまーの社長でもあったお人。「創業時の精神を受継ぎつつ、世の中のメルクマール（道標）をとなるような書籍を提案する出版社のひとつになりたい」と決死の覚悟で2社を引受ける。気心知れた仲間と酒場で業界談義をすることが生きがいと語る。

*クイズの答えは次号(16号)=梓会加盟出版社を紹介してゆきます

前号のクイズのお答え

企業経営の専門書出版社 中央経済社

1948年創業。植民地を失い戦火で焦土となった日本を経済立国とするために会計制度の普及を目的に出版業をスタートさせました。その後経営学、企業法務分野などに出版領域を拡大し、現在の「企業の経営問題とその対処」を出版対象とするユニークな専門書出版社の姿になりました。平成年代以降に当社が手がけたおおきなテーマは不良債権処理・コンプライアンス・成果主義・時価会計・国際会計基準・内部統制・ESGなど多岐にわたります。

企業の経営問題とは、同じテーマでも会社の規模・業種・立地・歴史などで1社1社異なります。当社の出版物がなければ日本中の企業が明日からの経営実務が困難になる、そんな存在であることを自負し、かつ目指している集団です。



梓会 図書館クラブ 通信

Azusa-kai Library Club



図書館は本の森。出版梓会は事典から絵本までユニークな本を丁寧に作る出版社の集まりです。この葉では毎回テーマを決めて、読書の愉しみを、ひとりの時間を極上にしてくれるお宝本を、こっそりお教えします

ウクライナ戦争はヨーロッパをめぐる争いです。

今回のテーマは、

「ヨーロッパとは何だろうか」

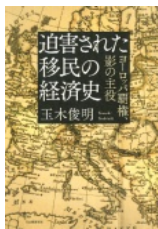
です。歴史的・地政学的・文化的、
いろんな視点から。



15号(2023年5月)
出版梓会

データダウンロードはこちら⇒





祖国を追われたディアスポラによる逆転の経済史！

ヨーロッパに繁栄をもたらしたのは、ユダヤ人、アルメニア人など迫害され、祖国を追われた人々「ディアスポラ」だった。彼らなしでは近世の発展はあり得なかったという歴史の皮肉を描き、ヨーロッパのみならず、世界の近世に対して新たな解釈を提供する一冊。

迫害された移民の経済史——ヨーロッパ覇権、影の主役
玉木俊明：著 河出書房新社
四六判上製 232頁 2022年刊 ISBN:9784309228433 2,805円



世俗の時代のヨーロッパにおける政教関係の構造と変容

神への信仰が自明だった宗教の時代から、ひとつの選択肢にすぎなくなる世俗の時代へ——。近世から現代にいたる時期のヨーロッパにおける世俗と宗教の関係を、政教関係の構造的変容を中心として、総合的かつ多角的に論じる。各国現状を比較した資料付き。

ヨーロッパの世俗と宗教——近世から現代まで
伊達聖伸：編著 勁草書房
A5判上製 344頁 2020年刊 ISBN:9784326102860 4,950円



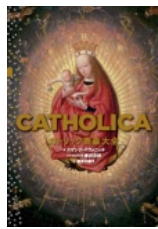
いまだに読まれ続けているという史上最悪の偽書成立の秘密

イタリア統一、パリ・コミュン、ドレフュス事件、ナチスのホロコーストの根拠とされた史上最悪の偽書「シオン賢者の議定書」。そのすべてに一人の文書偽造家が関わっていたとしたら？ 『薔薇の名前』のウンベルト・エーコが描く憎しみと差別のメカニズム！

プラハの墓地 ウンベルト・エーコ：著 橋本勝雄：訳 東京創元社
四六判上製 536頁 2016年刊 ISBN:9784488010515 3,850円



ボンゴレを上手に作るコツ、知ってる？ 某シェフによれば「春に作ること」だって。砂出しの水に片栗粉をちょっと入れてみて。こっちはNHK「ガッテン」のコツ。



ヨーロッパ文化の通底をなすカトリックの視覚文化を一望

ヨーロッパ特に西欧に根差し、全世界へと広がるキリスト教・カトリック教会の視覚文化を紹介。荘厳な装飾や絵画で埋め尽くされた大聖堂や、宝飾できらめく聖人の髑髏、街角の聖母像、祝祭の山車など網羅的に収録。日本人に理解しにくい宗教そのものを視覚的に一望できる図鑑。

CATHOLICA カトリック表象大全 スザンナ・イヴァニッチ：著
金沢百枝：日本語版監修 岩井木綿子：訳 東京書籍
B5変型上製 256頁 2023年刊 ISBN:9784487815692 4,180円



紋切型にも真実は存在する！ 形容詞によるイメージ百科

ヨーロッパとは何か。紀元前5世紀から20世紀まで、ヨーロッパに堆積された先入観、紋切型、思い込みを再検討する。形容詞はスポットライトのように、ヨーロッパを様々な角度から照らし出し、ヨーロッパはその都度、異なる様相を見せる。

ヨーロッパ紋切型小事典——AからZの煌めき
パスカル・ドゥテュランス：著 田中訓子：訳 作品社
四六判上製 198頁 2011年刊 ISBN:9784861823404 1,980円



今につながる歴史を実感し 現代社会を見る目が養えます

ヨーロッパ近現代史を学びながら、歴史を読み解く視点まで身につく入門書。現在の世界秩序と直接的に関係している近世ルネサンスから、現代までの歴史の決定的瞬間を、臨場感あふれる解説で垣間見ることができ、今につながる歴史を実感できます。

歴史の見方がわかる世界史入門——いまにつながるヨーロッパ近現代史
福村国春：著 ベレ出版
四六判並製 328頁 2014年刊 ISBN:9784860643935 1,760円



ヨーロッパはギリシア的理性とキリスト教的霊性の総合である

カントやヘーゲルが思想体系を完成させるも、やがて解体されマルクスの新思想が生まれる——そうした理性と霊性の総合から解体への転換期に新思想が創造されるといふパターンを古代以来のヨーロッパに見出し、哲学・宗教・文学を総合して知の見取り図を描き出す。

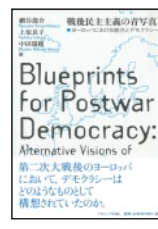
ヨーロッパ思想史——理性と信仰のダイナミズム 【筑摩選書】
金子晴勇：著 筑摩書房
四六判並製 400頁 2021年刊 ISBN:9784480017284 1,980円



福沢諭吉の『文明論之概略』の成立に影響を与えた名著

ヨーロッパ文明は世界の歴史のなかで、どのように位置づけられるのか。フランス革命とナポレオン戦争という、大きな歴史的事件を経験したギゾー。ソルボンヌ大学の教授を務め、また七月王政期には首相として国政を担った歴史家が、その問いに答えた講義録。

ヨーロッパ文明史——ローマ帝国の崩壊よりフランス革命にいたる
フランソワ・ギゾー：著 安土正夫：訳 みすず書房 【新装版】
四六判上製 344頁 2014年刊 ISBN:9784622078814 3,960円



「戦後民主主義」を 私たちは知っているのか

第二次大戦後のヨーロッパにおいて、「デモクラシー」という理念にはどのような期待が込められ、何が実現され、どのように変化してきたのだろうか？ 戦後民主主義という場に働くさまざまな力学を明らかにし、その構想にすぐ迫る。

戦後民主主義の青写真——ヨーロッパにおける統合とデモクラシー
網谷龍介、上原良子、中田瑞穂：編 ナカニシヤ出版
A5判上製 260頁 2019年刊 ISBN:9784779513794 3,520円